

01

第1章 人生の選択 I

- 人生の機会費用について学ぶ

本講での学習のゴール（講義後に学生は以下の事項ができるようになっている）

- 自分のこれまでのキャッシュフローについて把握している
- 大学卒業後のキャッシュフローについて考えることができる
- 大学卒業後、人生にどんな選択肢があるかに気づき、機会費用について理解できる

学習の狙い

大学入学を機に、これまでの住まいを離れて一人暮らしを始めたり、奨学金制度を利用したり、アルバイトをしたりとこれまで以上に日々のお金の管理（Day-to-day money management）が重要となる。この授業では、日々のお金の管理から、人生の機会費用やキャッシュフローについて学び、今後のライフプランを多様に考えることができるようになる。

この章の概要

私たちが生まれてから高校卒業までにどれだけの費用がかかったか、また大学生として生活していくためにどれだけの資金が必要かを考える。そして大学卒業後は、進学、就職、留学などいろいろな選択肢があることを知り、それぞれの機会費用について考えてみる。

[Case 1-1]

今年の4月に大学に入学して、大学の近くで一人暮らしを始めた。大学受験のためにどれ位費用がかかったのだろう。受験料の他に、実家は地方なので交通費や宿泊費もかなりかかったと思う。

表1 受験から入学までの費用（住居別）

費用の内訳	額(円)	自宅外通学		自宅通学		
		前年度増減額(円)	同増減率(%)	額(円)	前年度増減額(円)	同増減率(%)
受験費用	252,600	13,200	5.7	229,000	1,800	5
家賃	61,600	700	1.1			
敷金・礼金	205,800	3800	1.7			
生活用品費	305,500	15,100	5.4			
初年度納付金(*)	1,312,526	0	0	1,312,526	0	0
合計	2,138,026	32,800	1.6	1,541,526	10,800	0.7

*初年度納付金は文部科学省「平成25年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額（定員1人当たり）」による。

<注>同省が平成 26（2014）年度のデータを作成中のため、平成 25 年度のデータを使用しており、前年度増減はない。

*初年度給付金のうち、授業料は年 2 回（前期と後期）に分けて大学に納付することになっている。

初年度学生納付金（私立大学学部）

区分	授業料(円)	入学料(円)	施設設備費(円)	合計(円)
文科系学部	742,478	246,749	160,019	1,149,246
理科系学部	1,043,212	265,595	187,236	1,496,043
医歯薬系学部	2,764,631	1,036,391	863,538	4,664,560
その他学部	945,556	271,318	244,073	1,460,947
全平均	860,072	264,390	188,063	1,312,526

初年度納付金（国立 Y 大学例）

区分	授業料(円)	入学料(円)	施設設備費(円)	合計(円)
Y大学昼間学部	535,800	282,000	0	817,800
Y大学夜間学部	267,900	141,000	0	408,900

キー概念

- キャッシュフロー表
- 機会費用
- 生涯賃金
- ディシジョンツリー

キー概念解説

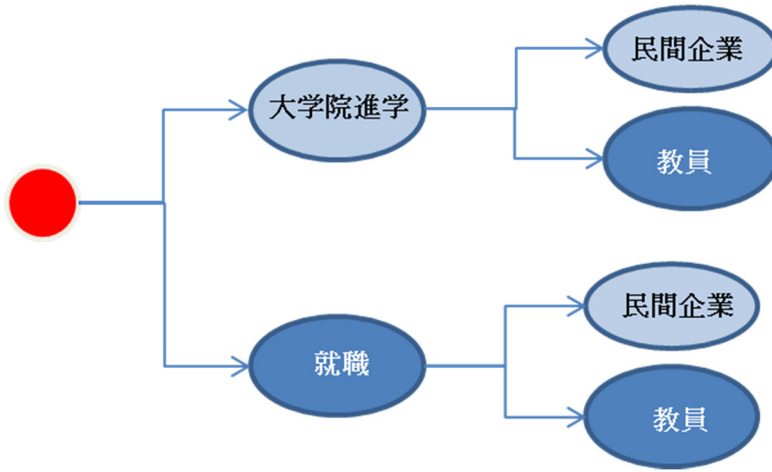
キャッシュフロー表：現在の収支状況や今後のライフプランをもとに、将来の収支状況や貯蓄残高を予想し、表でまとめたもの。年間収入、年間支出、年間収支、貯蓄残高を基本に記入する。

機会費用（Opportunity Cost）：ある行動を選択することによって失われる、他の選択可能な行動のうちの最大利益を指す経済学上の概念をいう。ある行動を選択することで失われる、他の選択肢を選んでいたら得られたであろう利益のこと。

生涯賃金：ひとりの労働者が生涯にわたって得る収入の合計金額のこと。一般的に、学校を卒業して働き始めてから定年退職するまでの現金給与および年間賞与の総計で、退職金や年金は含まれない。

ディシジョンツリー：ある課題について、とりうる選択肢や起こりうるシナリオすべてを樹形図の形で洗い出し、それぞれの選択肢を比較検討し、実際にとるべき選択肢を決定する方法。

現時点 大学院に進学するか? どこに就職するか



[Work 1-1]

[Case 1-1]で行った検討に基づいて、Appendix 添付のシートを使用し自身のこれから10年間のキャッシュフロー表を作成し、グループのメンバーと比較しあってみよう。更にキャッシュフロー表 (Appendix 参照) を作成してみよう。参照：生涯電卓：<http://shougaidentaku.com/>

[Work 1-2]

ある家族のこれから生涯のライフイベント表とキャッシュフロー表を見て、以下の観点からメンバーと検討してみよう。【Appendix を参照】

1. ケースA（独身）とケースB（結婚）とを比べてどこが変わっているか話しあってみよう。また生命保険料が増えている理由を考えてみよう。年間収支が赤字の年度はどれで、何が原因か。
2. ケースB（結婚）とケースC（子育て）とを比べてどこが違うか話し合ってみよう。例：金融資産残高は増えているか、減っているか。
3. ケースCで、年間収支が赤字の年はどれか、イベント予算で減らせるものはないか
4. それは何が原因か。
5. ケースCで貯蓄がなくなるのは、いつか。その原因は何か。どうしたらなくならないようにできるか生活費や保険料を減らすことはできないか。
6. ケースCで夫がキャリアアップのため、今年 50 万円を自己投資（支出）して、年収が来年から 1 割上がった場合、キャッシュフローはどうなるか。キャリアアップのための投資資金は回収できるか。
7. ケースCで住宅ローンはAさんが何歳まで続くか。これ住宅を見直すにはどうしたらよいか資金計画は見直せるか。
8. ケースCで第一子が小学校に入学する年から配偶者が正社員として年収 250 万円を 60 歳まで得られたら、キャッシュフローはどうなるか。
9. 資産運用のリターンを 2%に増やせるとすると、キャッシュフローはどう変化するか
10. 病気・離婚・失業などの場合、キャッシュフローはどうなるか。こうしたリスクのカバーはどうしたらいいか。
11. 老後資金を退職金と併せて 3,000 万円、65 歳までに作るためにどうしたらよいか。

[Homework 1]

私が、生まれてから高等学校卒業までの18年間にかかった教育費総額について調べてみよう。

教育費：教育費は、家計において長期的な支出となる項目で、「学校でかかるお金」と「学校外でかかるお金」を全て含めたものをいう。文部科学省では「子どもの学習費調査」を実施している。この調査では、教育費を学校教育費と学校外活動費（補助学習費、その他の学校外活動費）と学校給食費の3つに分けて、保護者が支出した費用を算出している。

・教育費＝学校教育費＋学校外活動費＋学校給食費

表1 学校種別の学習費総額

(円)

区 分	幼 稚 園		小 学 校		中 学 校		高等学校(全日制)	
	公 立	私 立	公 立	私 立	公 立	私 立	公 立	私 立
学 習 費 総 額	222,264	498,008	321,708	1,535,789	481,841	1,338,623	409,979	995,295
公立を1とした私立の比率	1	2.2	1	4.8	1	2.8	1	2.4
うち学校教育費	119,175	319,619	59,228	885,639	128,964	1,022,397	242,692	740,144
構成比(%)	53.6	64.2	18.4	57.7	26.8	76.4	59.2	74.4
公立を1とした私立の比率	1	2.7	1	15.0	1	7.9	1	3.0
うち学校給食費	19,382	36,836	43,176	46,089	38,422	4,154
構成比(%)	8.7	7.4	13.4	3.0	8.0	0.3
公立を1とした私立の比率	1	1.9	1	1.1	1	0.1
うち学校外活動費	83,707	141,553	219,304	604,061	314,455	312,072	167,287	255,151
構成比(%)	37.7	28.4	68.2	39.3	65.3	23.3	40.8	25.6
公立を1とした私立の比率	1	1.7	1	2.8	1	1.0	1	1.5

(注) 平成26年度の年額である。(以下の図表において同じ。)

(参考)学校数と幼児・児童・生徒数全体に占める私立の割合(平成26年度)

幼稚園 (学校数:63.1% 園児数:82.7%)

小学校 (学校数: 1.1% 児童数: 1.2%)

中学校 (学校数: 7.4% 生徒数: 7.0%)

高等学校(全制) (学校数:27.5% 生徒数:32.0%)

(注)高等学校(全日制)の生徒は、本科生に占める私立の割合である。

(資料)文部科学省「平成26年度学校基本調査報告書」